

御所湖隨想

H22年12月 No.15

渡り鳥

冬になると餌のなくなる寒いシベリアから、日本にやってくる鳥がたくさんいます。その中で、体が大きく見やすい鳥が水鳥でしょう。

御所湖では、ハクチョウは広く知られていますが、ガンを見ることはまれです。近県秋田の八郎潟ではシジュウカラガンが、宮城の伊豆沼ではマガンが有名です。特にマガンの群れは2万羽にもなり、その夜明けの飛び立ちは圧巻です。

御所湖では今年そんなめずらしいガンを見ることができました。ハクチョウの群れに混じって、田圃で採餌しています。多くの方は水の上で餌を取っている鳥を思い浮かべるのですが、鳥たちは生きていくためには、“そんなの関係ねえ～”とばかりに田の中にくちばしをつっこみ、くちばしをまっ黒にしています。おかげでコハクチョウとオオハクチョウの見分けがつけづらいこと……。



上の田圃の写真をよく見て下さい。ハクチョウの左に4羽のグレーで目立たない鳥がいますよね。その下の写真がその正体ですが、シジュウカラガン1羽とマガン3羽です。



シジュウカラガン

シジュウカラガンは、ほおが白いのが特徴です。首の付け根に首輪のような白いリングがあります。右の写真を見るとオオハクチョウとの違いがわかりますね。まるで、大人と子供です。



マガン

マガンはくちばしの付け根が白いのが特徴です。3、4年前、御所湖でマガンが見られたと報道されたことがありましたが、この時は額の白い部分がもっと上まであるカリガネでした。カリガネもマガンに混じっていることがあります。おなじガンの仲間なので合点がいきますが、ハクチョウとガンがいっしょというのはそぐわない光景だと思いませんか。

街中でよく見かける小鳥のシジュウカラ、コガラなどが冬は混群を作っています。気をつけないとみんな同じ鳥に見えますが、キツツキの仲間のコゲラもいっしょにいますよ。樹々の葉が落ち、鳥を見やすいので、鳴き声が聞こえたら、暖かい部屋の中からでもじっと観察してみてもいいでしょう。